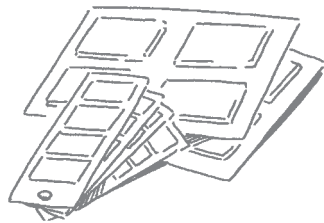


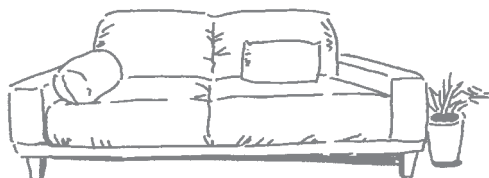
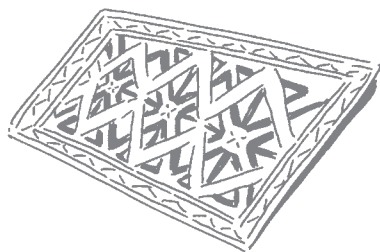
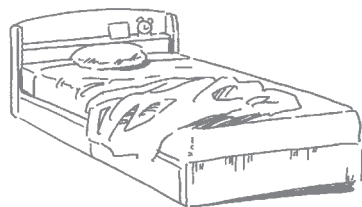


REISMの
暮らし方
BOOK



CONTENT

色	3
バランス	7
ベッド	8
ラグ	11
ソファ	13
REISM のサービス	14



色

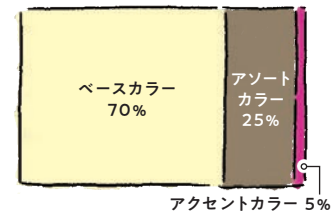
インテリアのカラーコーディネートを楽しむには、まず、どんなお部屋にしたいのかイメージすることがとても大切。温かみのある「北欧ナチュラル」、色数を抑えた「シンプルモダン」、落ち着いたある「インダストリアル」…どんな色のお部屋が理想的だろう。



色の配分を考える

【ベースカラー 70%】

床、壁、天井などの内装材で構成される色。最も大きな面積を占める。白やアイボリー、明るめのグレーなど、淡い色を選ぶと空間に広がりを感じさせる。



【アソートカラー 25%】

建具や家具、カーテンやラグマットなどにあたる。これらはなるべく同系色でまとめることがおすすめ。好みのインテリアテイストをイメージしながら選ぶと◎

【アクセントカラー 5%】

部屋のテーマになる色。好みの色を取り入れて雰囲気を変えることができる。

どんな色を選ぼうか

【暖色系】

暖色は明るく温かい印象、柔らかさや親しみやすさを感じさせる色味。例えば、採光の入りにくい北向きの部屋など、空間に温もりを取り入れたい時に使用すると効果的。その他に、活動的、健康的なイメージや、食欲を増進させる効果も期待できるとされており、キッチンやダイニングエリアにもおすすめの色です。その反面、鮮やかな暖色は興奮作用があるのでベッド周りには不向き。小さな個室で壁やカーテンに使うと圧迫感が生まれてしまい、空間が狭く感じてしまうことも…これらの効果を和らげたい時は、淡い色を選ぶとバランスが取れるはず。



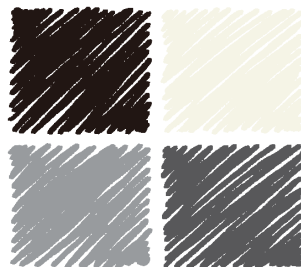
【寒色系】

寒色は、清潔感や知的さ、冷静で涼しげな印象をもつ色味。鎮静効果が期待できるのでベッド周りや、集中力を高めたいデスクスペースにおすすめ。さわやかな印象の白や青は、サンタリーなどの水回りに清潔感をプラスしてくれる。



【無彩色系】

白、黒、グレーなどの無彩色からなるモノトーン。なかでも白はどんな色とも調和し、圧迫感がなく広々とした開放感や、明るく清々しい印象をもつ色味。壁面や天井といったベースカラーとして使われることが多く、そこに黒、グレーを合わせるとスタイリッシュな印象になるはず。色味がないため、スッキリとシンプルなお部屋に。



組み合わせを考える

まとめやすさ重視なら
「同系色」

ブラウンのソファ × ベージュのクッションなど、色味が同じものの組み合わせ。他の色味が加わっていない組み合わせのため、まとまり感があり、比較的チャレンジしやすい。

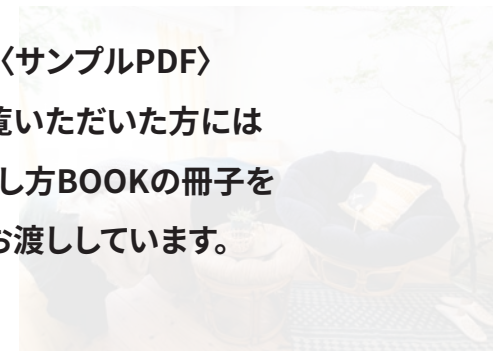


統一感重視なら
「類似色」

暖色同士、寒色同士など、色相の隣の隣までの色の組み合わせ。暖色同士、寒色同士同じカラーグループの組み合わせなので色同士が自然とまとまる。ただし、2色の配分を同じ面積割合にすると、のっぺりとした印象になりやすい。どちらかの配分を多めもしくは少なめにするのがおすすめ。

〈サンプルPDF〉

内覧いただいた方には
暮らし方BOOKの冊子を
お渡ししています。



コントラストや
個性重視なら「反対色」

個性的なお部屋作りをしたい場合、あえて反対のカラー同士の組み合わせを考えるのも◎
例えば、オレンジのソファ × パープルのクッションなど。

